

# 証券市場新聞

1 第165号

日経平均株価  
2万0788円39銭  
▲14円90銭(前日比)  
TOPIX  
1564.63  
▼2.86(前日比)

2019  
2/4  
月曜日

発行元 株式会社 証券市場新聞社  
〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C  
TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861  
marketpress.jp



## 新分野で攻める通信大手

### 決済独自路線のソフトBとドコモ

スマートフォンに絡む通信料金単価が頭打ちになるなか、通信大手各社はM&Aなどを通じて周辺ビジネスの拡充を加速させている。その筆頭がKDDI(9433)の動きで、先月末にはインターネット証券大手のカブドットコム証券(8703)への出資報道が株式市場でも大きな話題となった。中長期的な人口減少から加入者増が見込めないなかで、スマートフォンを活用したサービスを拡充させ、それらにユーザーを囲い込むかが、生き残りの条件となる。

### KDDIはM&Aを加速

開業、今回のカブドットコム証券への出資により、オンラインストアを含めたスマホを通じた簡単な金融サービスの拡充を目指す。KDDIはIoTインテグレーションのエコモット(3987)への出資も発表しており、サービス拡充へ向けて、高度な技術を持つシステム開発会社との連携も加速している。



通信キャリアはスマホを利用した周辺ビジネスを強化している

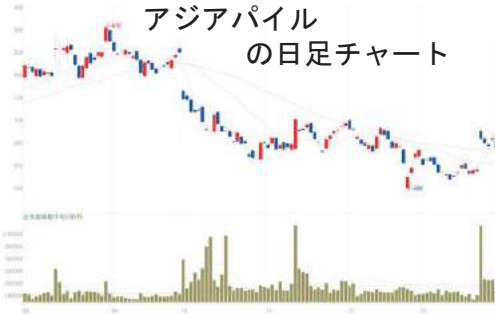
総務省からの通信料金値下げ要請などにより、通信料金単価は今後も下落傾向が予想されるなか、通信大手は新たな動きを加速させている。そのなかで、KDDIは三菱東京UFJ銀行との共同出資により「じぶん銀行」を

レス決済で攻めているのがソフトバンク(9434)だ。ヤフー(4689)と共同出資の合弁会社であるPayPay(ペイペイ)を通じて、バーコードやQRコードを使って決済ができる新たなスマホ

一方、キャッシュユ

日経平均日足チャート





# アジアパイル急伸

## 19年3月期上方修正で増配

週明け28日、アジアパイルホールディングス（5288）が急伸。19年3月期の連結業績予想について、売上高を820億円から840億円（前期比7・7%増）へ、営業利益を38億円から51億円（同58・2%増）へ、純利益を22億5000万円から31億5000万円（同64・8%増）へ上方修正、期末一括配当を8円50銭から11円50銭（前期7円50銭）へ引き上げた。国内部門の工事粗利益率が期初に想定した水準以上に改善している。

### 今週の動意銘柄

#### イーブック利食い売り

28日、イーブックイニシアティブジャパン（3658）が5日ぶり反落。19年3月期の単体業績予想について、売上高を135億円から140億円（前期比17・8%増）へ、

営業利益を4億6000万円から5億6000万円（同99・6%増）へ上方修正したが利益確定売りに押された。ユーザー獲得のための広告宣伝費増等がある一方で、売上総利益率の高い電子書籍事業が好調に推移した。

### 洋シャッター大幅増額

29日、東洋シャッター（5936）がストップ高まで買われ、昨年来高値を更新した。19年3月期の連結業績予想を上方修正したことを好感した買いを集めた。売上高を190億円から210億円（前期比10・3%増）、営業利益を6億円から12億円（同2・1倍）へ大幅に増額。昨年9月以降に多発した大型台風の影響で、シャッター修理需要が急速に高まり、受注済み案

件の採算も改善している。

#### トレンド欧州苦戦

29日、トレンドマイクロ（4704）が急反落。18年12月期の連結業績予想について、売上高を1648億円から1603億円（前期比7・7%増）へ、営業利益を407億円から357億円（同2・0%減）へ下方修正した。北米や日本は概ね期初の想定通りながら、主に欧

州のいくつかの国において企業向けビジネスが期末に向け伸び悩み、想定より大幅に下回る見込み。

#### 信越化33%増益

30日、信越化学工業（4063）が反発。19年3月期第3四半期累計（の連結決算は、売上高は1兆2068億4200万円（前年同期比13・7%増）、営業利益は3246億2200万円（同33・4%増）と大幅な増収増益となった。半導体シリコンは出荷増に加えて製

### 正直いいさんの株で大判小判

1日の東京市場は朝高後に戻り売りに押されました。前日の米株市場でハイテク株比率の高いナスダック指数が大幅に続伸したことや米中貿易摩擦の緩和期待から買い先行が始まりましたが、為替が1ドル高水準で推し進められていくことが上値を重くして万1000円を指す動きを期待していません。日経平均は2円を指す動きを期待しますが、SQ週であることから、絡む動きには注意が必要です。

### SQ週で先物には注意

村田製作所が商い伴って大幅高アンリツが大幅に続伸の反応は上々です。3Q決算では4日調のカブコン発表でバイオレ2好（9697）に注目です。柄では好決算と自社株買いを発表したハリマ化成（4410）が大幅高、ソースネクスト（4344）も急速に出直っており、ここからは押し目狙いでいいでしょう。花咲翁



### 曙ブレーキADR

30日、曙ブレーキ工業（7238）が急落、上場来安値に顔合わせした。事業再生ADR手続を正式に申請し、受理され

たと発表。ADR申請は各メディアがすでに伝えており、朝方から売りが殺到した。金融機関へ返済一時停止に加え、トヨタ（7203）へ増資を要請している模様で、希薄化なども意識された。

# 円高懸念と決算発表

## 転ばぬ先のテクニカル

先週の東京株式市場は横ばい推移の一週間となりました。週間の日経平均の上下幅は523円幅ありましたが、前週比では15円高です。週末金曜日には1月21日のザラ場高値を更新する場面がありました。しかし、心理的な壁である2万1000円手前では戻り売りも出たようです。サンバイオ株の急落によりマザーズ市場に激震が走りましたが、米FOMCではハト派的な声明が出たことで、ムードは悪くありません。

米国株が昨年末の下落幅の64%を取り戻す中、東京市場は36%しか戻っておらず出遅れている訳ですが、ハト派的な声明によりドルに売り圧力が高まるため、日本株にとっては円高進行の可能性

を相場は先取りしているようです。足元で進んでいる決算発表次第ということになりそうです。

日々勇太郎



30日、サンバイオ(4592)がストップ安比例配分。大日本住友製薬(4506)と米国で進めている再生細胞医薬品「SB623」慢性期脳梗塞プログラムフェーズ2b臨床試験について、主要評価項目を達成できなかつたと発表されたことを受け、失望臨売りが殺到した。

# サンバイオ売り殺到

## 脳梗塞臨床評価達成できず

床の結果を受け、今



後のグループ事業を見直すとしており、

# アンリツ5G開発で増額

2・2倍)へ上方修正した。北米・アジア地

31日、アンリツ(6754)が急伸。19年3月期の連結業績予想の修正を発表。売上収益を920億円から980億円(前期比14・0%増)へ、営業利益を70億円から110億円(同

大日本住友もストップ安に売られた。

域で5Gのチップセットと携帯端末の初期開発投資需要が計画を上回る見込み。

## サイバー減額で安値

31日、サイバーエージェント(4751)が続落、昨年来安値を更新した。19年9月期の連結業績予想について、売上高を4700億円から4400億円

(前期比4・9%増)へ、営業利益を300億円から200億円(同33・7%減)へ下方修正した。ゲーム事業における新規タイトルの初速の好調さを確認していたが、想定を下回る実績となっている。

## デサントはTOB

31日、デサント(8114)がストップ高。伊藤忠商事(8001)と完全子会社BSインベストメ

ントが同社株に対するTOBを発表したことを受け、TOB価格2800円にサヤ寄せした。伊藤忠はデサント株の30・4%を保有する筆頭株主だが、グループで持ち株比率を高め、経営への発言力を強めるのが狙い。買付予定数は721万株で、TOB成立後、持ち株比率は最大で40・0%に高まるが、デサントの上場は維持される。

# 村田製54%増益で分割も

週末1日、村田製作所(6981)が大幅続伸。19年3月期第3四半期累計の連結決算は、売上高1兆2160億800万円(前年同期比17・7%増)、営業利益2250億6700万円(同54・6%増)と市場コンセンサスを上回る大

幅増収増益だった。主力製品の積層セラミックコンデンサが大幅に増加している。同時に3月31日を基準日として1対3の株式分割も発表。

## ハリマ化決算と自社株買

1日、ハリマ化成グループ(4410)が続騰、4ケタを回

## 今週の動意銘柄

復した。19年3月期3Q累計の連結決算は、経常利益40億円(前年同期比28・5%増)と大幅増益で着地、併せて発行株の3・84%にあたる100万株の自社株取得枠を設定したことで買い気が再燃した。3Qの営業利益進捗率は88・9%に達し、上振れが期待された。(4面決算記事参照)

# NYダウ戻り相場の限界

## 3本の移動平均線に注目

国際テクニカルアナリスト  
武蔵 宗久 氏

株式市場は昨年来、波乱相場が続いているが、今後の相場を展望する。

NYダウは昨年10月3日に、史上最高値2万6828ドルを記録した後、12月24日の2万1792ドルまで5036ドル下落した。その後、今年1月30日には、2万5014ドルまで322ドル上昇し、戻り率は63%になっている。この戻り状況と類似したのが昨年前半にも記録していた。昨年1月26日の当時史上最高値であった2万6616ドルから3月23日の23533ドルまで下落した後、6月11日の2万5322ドルまで上昇し、戻り率は58%であった。そしてその後調整相場に入っている。

いずれにしても、エリオット波動理論の戻り相場の限界に差し掛かっていることから、今後の相場を警戒する必要がある。NYダウの移動平均線を検証すると、現在一番上が200日線、その下に75日線、一番下に25日線が走っている。この状況は長期のトレンドとしては下降相場の範疇にある。25日移動平均線は昨年10月10日から下降曲線を描き、NYダウは急落したが、今年1月23日に上昇に変化し、現在は急激に上昇曲線を描き出している。この25日線が75日線を上回り、200日線を下から上に突き破って「ゴールデンクロス」を示現すると、NYダウの長期上昇相場へ発展する可能性が高くなる。

# 相場展望

当面はNYダウが10年前、リーマン・ブラザース破たん後に最安値を記録した3月9日前後まで、波乱相場は続く可能性が高い。

## ～決算情報～

### ハリマ化成グループ

#### 3Q24%営業増益で着地 製紙用薬品ほかいずれも前年上回る

ハリマ化成グループ（4410）の19年3月期第3四半期累計の連結決算は、売上高594億8600万円（前年同期比9.9%増）、営業利益38億1800万円（同23.9%増）、最終利益36億8800万円（同71.3%増）と増収大幅増益で着地した。欧州、中国を中心に販売数量が増加、製紙用薬品が2割近い大幅な伸びになったほか、印刷インキ用、塗料用の樹脂化成品やローターの印刷インキ用樹脂や粘着剤用樹脂、ソルダペースト、半導体用機能性樹脂など電子材料いずれも前年同期を上回り、為替差損益も利益を押し上げた。

通期は売上高800億円（前期比9.1%増）、営業利益45億円（同12.2%増）、最終利益37億円（同35.7%増）と従来予想を据え置いた。配当は第2四半期末、期末合わせて年間34円（前期23円）を予定。

### 日本トリム

#### 22.7%営業増益を達成 第3四半期インドネシア事業伸びる

日本トリム（6788）の19年3月期第3四半期累計（2018年4月～12月）の連結決算は売上高115億7400万円（前年同期比10.0%増）、営業利益18億9200万円（同22.7%増）、純利益10億9600万円（同6.8%増）と増収増益を達成した。整水器販売事業では、引き続き「健康経営」を切り口とした企業への一括導入や営業社員の販売力強化に注力。海外では、インドネシアのボトリングビジネスが、売上高前年同期比35.0%増（現地通貨ベース）と順調に伸長している。

通期は売上高154億3000万円（前期比10.0%増）、営業利益24億4000万円（同51.9%増）、純利益14億6000万円（同23.5%増）と従来見通しを据え置いた。

## 潮流

## ヘッジF一斉買戻しの条件？

## FRB議長政策転換はプラスの衝撃

marKet / bAnk

引き締めに慎重なハト派姿勢がかなり鮮明だった。パウエルFRB議長は「利上げの必要性が低下した」との見解を示した。バランスシートの縮小政策についても状況次第で見直す方針を示した。今後は経済や金融市場の動向次第では利下げなど金融緩和もありうる。金融正常化路線の転換を打ち出したことは株式市場にプラスの衝撃を与えた。

これで世界を脅かす3つの不安材料のうち、一つが消えた。残り2つとは米中貿易戦争と英国のEU離脱(ブレグジット)だ。米中貿易問題では中国政府が輸入を増やし、2024年には対米貿易黒字をゼロにすることを発表している。さらに、中国が景気対策を発表した。減税とインフラ投資だけで2兆5000億元(約40兆円)と大規模だ。銀行の資本増強支援など金融面の対策も強化する。中国が米国の製品を買うためには内需を喚起しなくてはならない。そのための景気対策ということだ。対応の早さを日本も見習うべきだ。

1月30日から米中両政府による閣僚級の貿易協議が始まった。2月中にどこまで合意でき

1月30日の米連邦公開市場委員会(FOMC)では、米連邦準備理事会(FRB)の金融

政策が最大のポイントだ。中国に対する高関税は中国の製品を購入する米国企業が背負うことになる。つまり米国企業の業績を下押しする。トランプ大統領は中国に対する高関税は中国企業が払うと勘違いしていた

のだ。株価を上昇させたいトランプ大統領は高関税政策を見直すことが考えられる。マーケットが評価できる内容合意であれば世界の株式市場が好感して上昇基調を強めるだろう。

残りの不安材料は英国の欧州連合(EU)離脱だけとなる。3月29日の期限までに回避することができるかが最大のポイントだ。アイルランドと英領北アイルランドの国境検査を避けるために英国全体がEU関税同盟にとどまる措置もある。ただ、与党・保守党内の離脱強硬派が反対している。最終的には国民の審判を仰ぐことになることも考えられるが、国民は離脱反対が多数を占めており、英国はEUにとどまることになる。この様なベストのシナリオになればヘッジファンドは一斉に株式を買い戻し、株式市場が一変する。

潮流銘柄はベйкаレント(6532)、東映アニメーション(4816)、ベクトル(6058)。

から優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは15.5%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

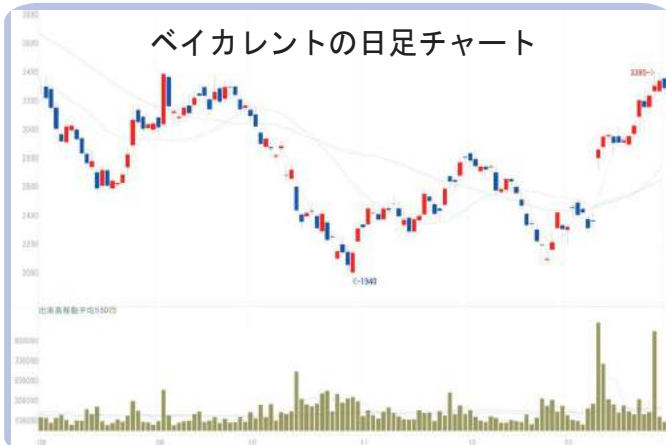


岡山憲史氏(株式会社マーケットバンク代表取締役)のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から

残るは米中貿易と英EU離脱

ベйкаレントの日足チャート



# チャート から読む 騰落銘柄

## インタアクション(7725)



1月22日の1841円を底に上昇基調継続、50日線突破後は上値志向を強め18年11月29日の最高値2608円奪回が視野に入る。1億4600万円の大口受注獲得を発表しており、業績上ブレ期待。

## チームスピリット(4397)



日足陽転のあと、5日線と日足一目均衡表転換線を支持に上昇再開。1月28日に最高値3990円を付けた後も値を保ち、先高感を強める。独自のRPA関連事業による成長性は大きく、青空相場を一段高へ。

## サイバーエージェント(4751)



18年9月26日の最高値6550円からの下落トレンドを継続中で、19年9月期の方修正を受けて1月31日には3700円割れで昨年来安値を更新。次のフシは17年10月安値の3230円。

## サンワテクノス(8137)



月足陰転のあと出直り、25日線をいったん上回るも、30日の急落で日足陽転ならず。大勢下降トレンドに変わりはなく、再び下値模索へ。押し目買いに信用買い残の整理が進まず、需給も重荷に。

※チャートは日足

今週の

# 活躍期待銘柄



KOA(6999)

## 自動車向け伸び業績好調

KOA(6999)の株価は18年12月25日の昨年来安値1128円を底にジリ高基調が継続、50日線突破から上昇加速を期待したい。19年3月期は第3四半期累計で売上高423億7500万円(前年同期比8.4%増)、営業利益43億9300万円(同2.0%増)と計画超で着地、未公表だった通期予想は1月25日に売上高559億円(前期比6.4%増)、営業利益55億4000万円(同3.7%減)と発表した。減益ながら、減価却費などの固定費増が要因で、業績は想定以上に好調を維持している。

電子化の進行で自動車関連市場が拡大しており、自動車向けに抵抗器が伸びている。環境対応車用パワーモジュールやセンサー素子などで研究開発を推進しており、来期以降の展開に期待。PBR1倍割れに割安感。(と)

### PBRは1倍割れと割安感



リネットJPN(3556)

## 55%増収で経常利益8.4倍

リネットジャパングループ(3556)は大勢上昇トレンドのなか、5日移動平均を支持線に下値を切り上げ、株式分割を考慮した実質最高値1470円奪回へ向かってきた。主力のネットリユースは自社サイトに加え、Amazonやヤフーショッピング、楽天市場など販売チャネルを多様化することで新規ユーザーを開拓、海外ではカンボジアで中古車両、農機具需要に対応した販売に加え、リースにも乗り出した。ネットリサイクルは小型家電リサイクル法認定事業者として全国175の自治体と連携、急速に取り扱いを伸ばしている。19年6月期は連結売上高70億2800万円(前期比54.9%増)と事業拡大ピッチが加速、ブランドデザインなど一時コストで落ち込んだ収益も経常利益4億400万円(同8.4倍)へ急回復を見込む。(さ)

### 事業拡大加速し一時費用一巡

※チャートは日足

# 新興株や材料系を物色

## 高野恭壽の株式情報 これでどや!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



**高野恭壽(たかのやすひさ)氏** 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

ニューヨークダウが2万4600ドル前後のみあいから上つ放れて2万5000ドル台に乗せました。昨年12月6日

以来の回復です。米国のFOMC(連邦公開市場委員会)でFRBパウエル議長が金利の据え置きを決めて、今後の利上げについても慎重な姿勢で対応するとの発言を好感して一気に戻しました。これを好感して1月31日の東京市場も村田製作、東京エレ、TDK、ファナックなどが上値を追い、つれて外需系に戻りが顕著になりました。

## アンジェスは近々決着

内需系では日通が好決算で急伸したほか、アステラス製薬、JR、ソフトバンクGなどが買われ、反面、スクリーンが減額修正で大幅安、東電HDが急落しました。前日にストップ安となった新興市場のサンバイオが連続S安となり、関連の住友も大幅下落となっていました。しかし、その他の医薬品は落ち着きを取り戻して反発していました。

米中協議が行われていますが、貿易面では改善が進むものと思われ、外需系銘柄が引き続き物色されていくと思われ。その他、鉄鋼が戻す動きが強まり、新日鉄、JFEが水準を上げていました。また、非鉄金属がしばらく調整していましたが、ようやく物色される動きがみられるようになり、東邦亜鉛(5707)などが注目されます。日経平均は1月21日の高値抜けから、2万1000円台に乗せる可能性が高く、今週



には2万1500円台に向うことになりそうです。今回の狙いは自律制御システム研究所(ACSL)6232です。ドローンの自動運転技術を提供しており、将来有望な銘柄として注目されていくことになるでしょう。その他はコンニカミノルタ(4902)、オリックス(8591)。百貨店も調整から戻す見通しがでてきましたので、エイチ・ツー・オーリテイリング(8242)に注目です。世界的株価の回復でソフトバンク、クグル、アップ(9984)の戻りも期待できます。毎日情報を配信中!

高野恭壽公式ホームページ  
高野恭壽の株式市場情報  
これでどや!!  
<https://marketpress.jp/kabu-takano/>  
毎日情報を配信中!



# 星野三太郎の 株街往来

～有権者目線～

4月

の統一地方選へ向けて各党の動きが活発化してきた。野党では国民民主党と自由党との合併が報じられていたが、大阪では「大阪都構想」の制度案を議論する法定協議会で維新側と公明など他党派の対立が激化、これらは統一地方選を意識した動きもあるだろう。

Rの駅前では、普段は見ることのない議員が先週あたりから一生懸命にビラ撒きを行っている。隣町では、野党を貫いてきた議員が与党への鞍替えが取りざたされるなどあらゆるところで慌ただしくなっているが、このような動きを見ていると有権者目線ではなく、自己保身が優先と思えてしまうのは筆者だけだろうか。

選挙が終わればその先には消費税の10%引き上げが待ち構える。消費税引き上げを公言して選挙に挑んだ与党はその大半が敗戦しているようだ。今回は軽減税率という複雑な制度が導入され、商店経営者の頭を悩ませている。ポイント還元による増税対策を含めて、有権者の怒りを鎮める一時しのぎ的な印象を拭けない。与野党とも選挙対策でなく、中長期的な視点に立って行動してほしい。



## New product

### カプコン 米国でも開催決定！ ストリートファイターリーグ

カプコン(9697)は、「ストリートファイター」シリーズを活用したeスポーツの「ストリートファイターリーグ」において、今春の日本での開幕を皮切りに、4月より米国でも「Street Fighter Pro League - USA」として開催する。

「ストリートファイター」は全世界でシリーズ累計4200万本(18年9月末時点)の出荷を誇るなど、登場から32年を迎える今なお、世界中で人気を博している。

今回開催を決定した「Street Fighter Pro League - USA」は、世界で急成長を続けるeスポーツ市場において、潜在的なプロプレイヤーの発掘や新たな展開を目的として開催。2014年から個人戦として実施しているCAPCOM Pro Tourとは異なり、3人で編成される6チームが総当たり戦で争う。4月～6月の春シーズンに続き、秋シーズンも開催を予定している。

## 栗田貫一さんサプライズ登場

USJ

### ルパン三世 ファン・エクスペリエンス



「リストランテ・アモーレ」で栗田貫一さんが記念写真

「ルパン三世」の2つのアトラクションで、一日限定のスペシャルイベント「ルパン

ユニバーサル・スタジオ・ジャパンは、1月18日から開催中の「ユニバーサル・クルージング」で大好評の

「ルパン三世 ファン・エクスペリエンス」を1月24日に初開催した。この特別な日を心待ちにしていた多くの熱心なファンたちは、「ルパン三世カーチェイスXRライド」を体験。「ルパン三世」の声優をつとめる栗田貫一さんがサプライズで登場、ライブ・エンターテイメント・レストラン「ルパン三世リストランテ・アモーレ」では、栗田さんとファンが語り合い交流するトークセッションが開催。栗田さんの提案で「ルパン三世」のテーマ曲に合わせた名ゼリフを生披露し、特別なイベントのフィナーレを飾った。



# 敏腕先物トレーラー ハチロクの裏話

きそう  
である。  
三角持  
ち合い  
の終焉

## 大きく動きやすい週

### 2万1000円超えの可能も

先週の日を水曜日、木曜日、金曜日の3日連続で迎えるが、2月のSQとも重なってくるため、動きが大きくなりそうである。また、ボリンジヤールバンドでも△2σと▼2σのバンド幅が約430円程度と小さくなっており、一旦はボラティティが高くなる可能性もある。

日経平均もNYダウに連れて上昇、金曜日には1月21日の高値2万922円68銭を更新したが、昼からは失速、2万1000円の壁の厚さを見せつけられた。

相場は全体よりも決算発表される企業の個別物色が強まり、全体としてのボリュームに欠ける展開であった。

チャートの的に見ると今週はどちらかに大きく動いて

日足の一目均衡表では雲の下限が火曜日には2万1000円処まで下がり、水曜日には2万8000円処まで下がるため、動きが出てきそうである。

MACDは買いシグナル継続、RSIも50%台で過熱感はない。きつかけ次第では2万1000円を超えてくる場面も期待できよう。

ただ、金曜日の日足のチャートが戻り高値での十字足のような形になってきており、注意は必要である。

金曜日の高値2万929円63銭を抜いてくれば弾みが付き、2万1000円を固める動きとなり、12月17日の窓埋め(2万1363円67銭)を目指し展開となる。

抜けてこない場合は一目均衡表の雲の下限に沿う形で、25日移動平均線(2万340円処)を試す動きとなる。

(ハチロク)

日経225先物日足チャート



## 今週のスケジュール

- 1日 米1月雇用統計(22:30)  
米1月ISM製造業景況指数(2日0:00)
- 4日 1月マネタリーベース(8:50)  
中国春節休み(~10日)  
米12月製造業受注(5日0:00)
- 5日 米12月貿易収支(22:30)/米1月ISM非製造業景況指数(6日0:00)
- 7日 12月景気動向指数(14:00)  
11月全産業活動指数(13:30)
- 8日 12月毎月勤労統計調査(9:00)/1月景気ウォッチャー調査

## 編集後記

前週の東京市場はサンバイオックに見舞われた。サンバイオックは昨年11月半ばから株価が約3倍に急騰、信用買い残は340万株超に積み上がった。警戒し、急落があるとは予想していたが、米臨床結果に対する失望売りの規模は予想を上回った。代用担保に差し入れられていた中小型材人気を集めていた。30日料株も壊滅状態で、8%を超えるマザーズ指数は8%を超える急落となった。

相場はどこに落とし穴があるかわからない。天災は忘れたころにやってくる。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被りたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。